

人文科学概論： 時期 平成23年8月5日（金）
場所 神戸大学鶴甲第一キャンパス（国際文化学部キャンパス）
B棟101号教室

[発達科学部担当分]

8月5日（金）1時限（10:00～11:00）

講義題目：「音楽史の光と影 クルト・ヴァイルって誰？」

講義担当者：大田 美佐子（オオタ ミサコ）

講義概要：我々の周囲にある「今ある音楽」を理解するためには、個々の感覚や感性で受け止めることが大変重要ですが、その作品の音楽のつくり（楽曲分析）とともに、音楽が生まれてきた背景（社会史、文化史）、そして表現の根源にある創造の美学（音楽美学）、そしてその音楽が置かれてきた状況（受容史）、今その音楽が置かれている状況（音楽社会学）などを理解することが深く音楽を聴きとることにつながります。

それが音楽学を学際的で複合的な学問にしている所以でしょう。

さて、今回のテーマは知られざる作曲家の話です。

歴史記述にはつねに歴史家の視点から見える「光」と「影」が存在しています。

光と影はなぜできるのでしょうか？

クルト・ヴァイル（1900-1950）の創作世界と受容の問題を通して、創造の美学と社会的背景について学びます。

[文学部担当分]

8月5日（金）2時限（11:10～12:10）

講義題目：歴史学への誘い-映画『もののけ姫』を観ながら考える-

講義担当者：市澤 哲（イチザワ テツ）

講座の目標：歴史学とはどういう努力を私たちに求めるのか？

そのお返しとして、どんな能力を私たちに恵んでくれるのか？を考えたいと思います。

講義概要：高校で学ぶ日本史、世界史と大学で学ぶ歴史学はどう違うのでしょうか。

過去を扱う歴史学を研究することに、どのような意味があるのでしょうか。

歴史学の営みを一度経験して一緒に考えてみましょう。

素材にするのは映画『もののけ姫』。なぜアニメなの？と思うかもしれませんが、この映画の作品世界を解説しながら、歴史学がどのようにして未知の世界に迫っていくのかを体験しましょう。

それに、この映画、当時最新の歴史学の成果を踏まえてつくられているのです。

どこにその成果が使われているかは、授業を聞いてのお楽しみ。

高校生へのメッセージ：

歴史はかび臭い、歴史は暗記が面倒、なんて思ってませんか？

そう思っている人にこそ、授業を聞いてもらいたいと思います。

[国際文化学部担当分]

8月5日(金) 3時限(13:00~14:00)

講義題目: 戦争と多文化共生—美術を通して考える

講義担当者: 内田 正博(ウチダ マサヒロ)

講座の目標: 多文化共生の実現を真に希求するならば、これを阻害する諸要因について
しっかり認識し考察しておく必要がある。

平和の実現は異文化理解の困難さを知ることから始まる。

異文化を否定し共生を破壊する戦争のなかに身を置き、戦争の悲惨を直視した画家たちの作品を取り上げる。

絵画作品を通して、多文化共生を阻む諸要因の最悪の帰結としての戦争や暴力について認識を深めるとともに、多義的な芸術作品を読み解きながら、現実の出来事の解釈多様性に気づくことをめざす。

講義概要: 戦争画の代表的な作品とあってよいゴヤの『マドリッドにおける1808年5月3日、プリンシペ・ピオでの処刑』(1814年)やオットー・ディックスの三幅対『戦争』(1832年)その他の作品を取り上げ、その背景となった戦争(前者はスペイン独立戦争、後者は第1次世界大戦)を見据えながら、その時代と社会を視野におくとともに、他方、共生や異文化理解を阻む人間の心理にも目を向ける。

履修上の注意: 本講義では、ただ受け身的に情報や知識を得るだけではなく、自分の思考と感性をフルに働かせることが求められます。

高校生へのメッセージ:

「人間の数だけ答えがある」(安藤忠雄)という言葉があります。

大学生に求められる重要な仕事、それは、最終学年における卒論作成および卒業後の進路決定です。

これら二つに共通しているのは、それまでの受動的な勉強と異なり、いずれも自分が選んだ道を自分で切り開いて行かねばならないということです。

それは、自分探しの旅であると同時に、新たな自己形成、つまり「自分づくり」へのチャレンジとなります。

高校から大学、そして社会へ、皆さんは、正解がない世界に入っていくか、はなりません。

社会の諸問題にはあらかじめ決った正解はありません。あなたはどうか、がっねに問われるのです。